

第40回：大学等におけるオンライン教育とデジタル変革  
に関するサイバーシンポジウム2021.9.17.



# コロナ以降の高等教育デザイン

何を指して何を残し何を始めるのか



## 熊本大学

教授システム学研究センター

大学院教授システム学専攻

教授 鈴木 克明

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>





# 平時に戻るまでの遠隔授業のデザイン7か条



Kumamoto University  
大学院社会文化科学研究科  
教授システム学専攻

1. 対面授業をやらなくても立派な通学制課程
2. 無理はしない
3. 同じ形ではなく同じ価値を追求する
4. 順序を変える
5. 大切なのは学生が学び続けること
6. 非同期で学生の学習活動を支える
7. 平時になっても使えるオンラインの要素を探す

**NII** 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

【第4回】4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム(オンライン開催)  
2020. 4. 17

→平時が戻った後にはICT教育利用の本格化を

映像  
資料



[https://youtu.be/v\\_Wrmnbgao0](https://youtu.be/v_Wrmnbgao0)



[https://www.nii.ac.jp/news/upload/20200417-9\\_Suzuki.pdf](https://www.nii.ac.jp/news/upload/20200417-9_Suzuki.pdf)

# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

2020年春休みの米国を直撃したコロナ禍は「史上最大の非伝統的教育の実験であった」と総括した論文の提案はこの5つ。目指すのはImproved Student Engagement

**1. 意味生成のための協働的テクノロジー**

**2. 学習とテクノロジーの学生エキスパート**

**3. インフォーマルコミュニケーションのためのバックチャンネル**

**4. 協働学習のためのブレークアウトルーム**

**5. 学習空間拡張のための授業録画の提供**

# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

## 1. 意味生成のための協働的テクノロジー

ネットワーク上の共同編集文書、ディスカッションボード、ホワイトボードなどを講義ノートの作成のためでなく、学習内容や教員、あるいはクラスメートとつながるために活用し、情報の生成・共有・フィードバック供与・省察のプロセスを可視化し、タイムリーに進行させるために用いる。

# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

## 2. 学習とテクノロジーの学生エキスパート

コロナ禍以前から有効であったピアチュータリングをテクノロジーに強いデジタルネイティブの活動に広げ、学部学生が学習とテクノロジーの両面で活躍・貢献できる場面を増やす。自然発生的に活発になった学生相互の助け合いの輪を制度的に定着させ、新しいテクノロジーの活用を提案してもらい、教員の指南役をも果たしてもらおう。

# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

## 3. インフォーマルコミュニケーションのための バックチャンネル

テキストメッセージの交換を日常的に行っている世代に親和性が高いチャット機能を用いてインフォーマルで抵抗感が少ない会話を維持し、挙手による発言よりも気軽な形でのやり取りを可能にする。「はい」「いいえ」での回答を促すことから、質疑応答、多様な視点の表明など学生の積極的な関与を促す気軽な道具になる。

# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

## 4. 協働学習のためのブレイクアウトルーム

数人ずつの学生ごとに区分した小部屋を設け、最初に前提知識を確認したり、与えられたケースの解釈を試みたり、振り返りや質問をまとめる協働学習で学生を関与させる。ブレイクアウトルームでの活動中もそれぞれの部屋でホワイトボードや画面共有、ネット検索などのツールを併用させることができ、教員は入退室して進捗状況を把握できる。

# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

## 5. 学習空間拡張のための授業録画の提供

反転授業を採用している場合であってもなくても、授業に出席できない学生のために録画を提供することで、学生の再視聴と教員の授業分析を可能にする。オンラインセッションの録画・公開は容易になり、欠席者だけでなく、試験対策や外国人学生の再学習の機会となり学習空間が拡張できるメリットは大きい。



# アフターコロナの大学のニューノーマルに残したい5つの要素 (Educause 2021)



<https://er.educause.edu/articles/2021/3/improved-student-engagement-in-higher-educations-next-normal#fn12>

要素	望まれる効果等
1. 意味生成のための協働的テクノロジー	GoogleDocs、ディスカッションボード、ホワイトボード等
2. 学習とテクノロジーの学生エキスパート	学部学生が活躍・貢献できる場面を増やす。教員の指南役も。
3. インフォーマルコミュニケーションのためのバックチャンネル	テキストメッセージの交換を日常的に行っている世代に親和性が高く心理的抵抗が低い
4. 協働学習のためのブレークアウトルーム	知識の確認、ケースの解釈、省察や質問等のグループ作業
5. 学習空間拡張のための授業録画の提供	学生の再視聴と教員の授業分析を可能にする

# 自主的に学習できる人と そうでない人との差が格差の原因 と当事者たちが感じた経験だった



- ・ 日本財団(2020.5)第26回18歳意識調査
- ・ 休校措置により教育格差を感じた:58.6%
- ・ その理由を尋ねた自由回答:オンライン授業の導入期の違いや家庭環境、休校期間の差に加えて、「自主的に学習できる生徒とそうでない生徒の差が生じている」「学校以外で学習する習慣がない人は遅れると思う」という自主性の差にあるとの意見が挙げたと報告

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/01/new\\_pr\\_20210107\\_4.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/01/new_pr_20210107_4.pdf)



# 何を目指して何を残し何を始めるのか

アフターコロナの大学像を共有することから着手する



Kumamoto University

- 自主自律的学習者を育てる＝中核的ゴール
  - 生徒を「学生らしく」して社会に輩出する
- 学ぶ責任を委譲し、援助要請に応じる伴走者になる
  - 教えない授業と自分たちで学ぶ環境を供与
  - 動機づけとペースメーカーとしての授業:「足場外し」
- 知識詰め込みでなく理解・応用・創造レベルを扱う
  - 持ち込みなしの定期試験で単位を授与しない
  - 覚えてから応用ではなく、応用する中で覚えてしまうというアプローチ(逆向き設計):最初から挑戦的、難易度UP
- 授業時間以外の学習環境を整える
  - 同期型と非同期型をブレンドするデザインが肝要？

# 「ブレンド型」: 何と何を？

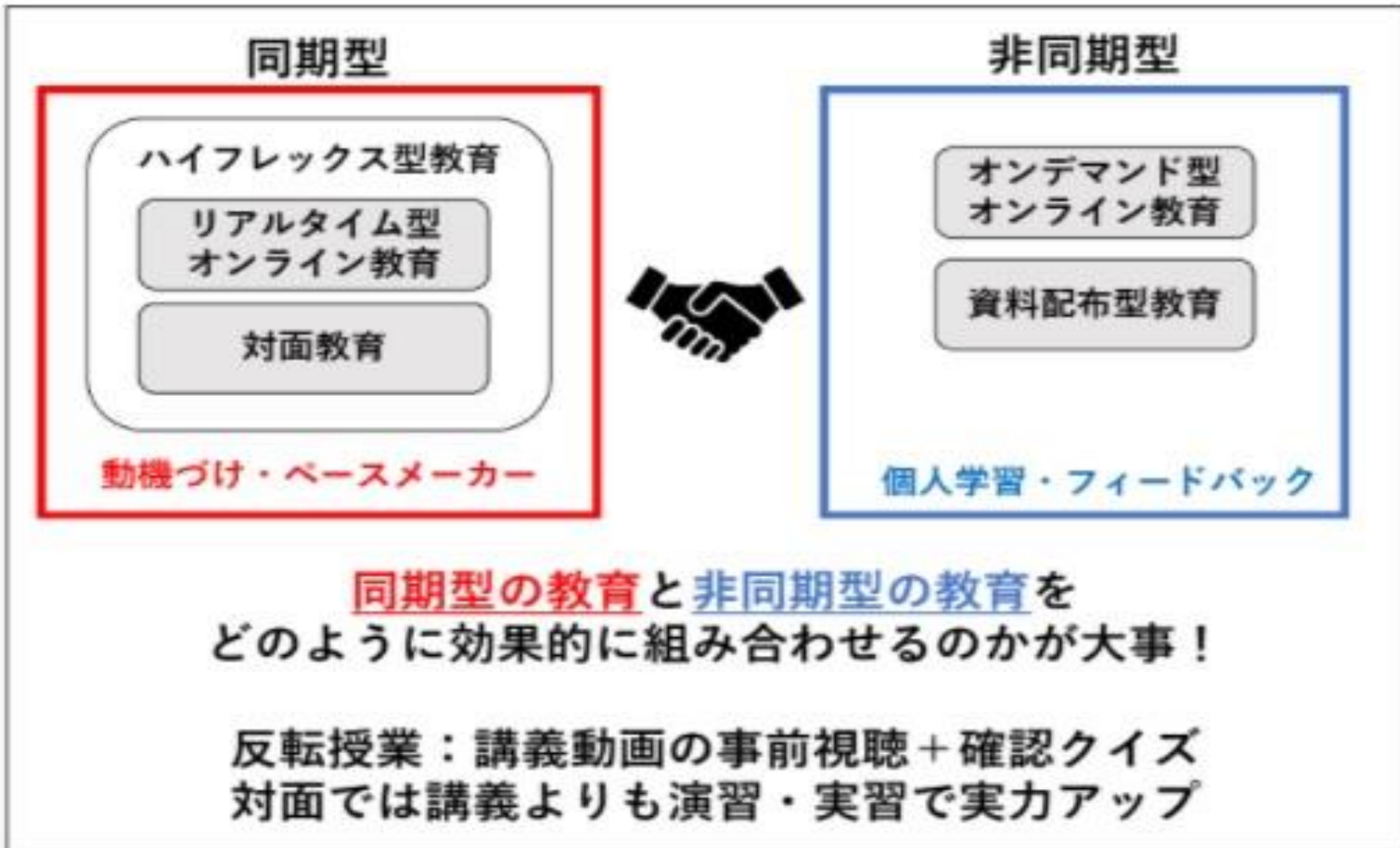
無責任なハイブリッド型・無理筋のハイフレックス型??



Kumamoto University

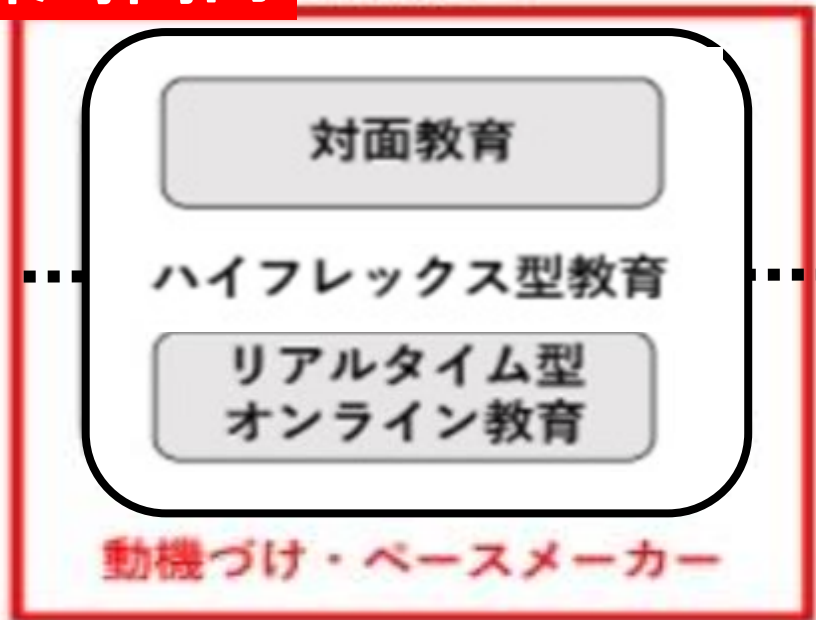
- ・ いわゆる「ブレンド型」と呼ぶ場合、オンラインと対面をブレンドすると考えるのが自然
- ・ 大学設置基準第25条の「高度なメディア利用」条項の拡大改訂に基づいたリアルタイム型とオンデマンド型とのすみわけを強調し、その両者をブレンドするという発想に基づく「新たなモデル」を提案 (熊本大学教授システム学研究センター2021.3)

鈴木克明(2021.9) 大学教育の新たなブレンド型モデルの構築に向けた提言. 第46回教育システム情報学会全国大会(オンライン) 発表論文集, 77-78.



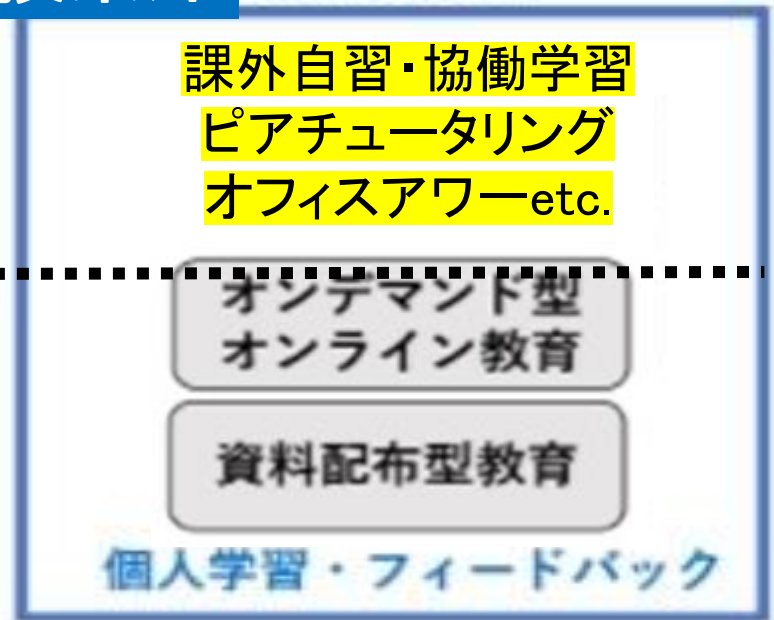
**授業時間内**

**同期型**



**授業外**

**非同期型**



**同期型の教育**と**非同期型の教育**を  
どのように効果的に組み合わせるのが大事！

反転授業：講義動画の事前視聴＋確認クイズ  
対面では講義よりも演習・実習で実力アップ

授業外に非同期型の学習支援を実現・拡充して「学生」に育てる



# 文科省大学間共同利用拠点 です。どうぞご活用ください！



Kumamoto University

絶賛  
募集中

いろいろ選べます・・・

- IDポータルサイト（イベント情報、マガジン、実力診断）
- 公開講座ID入門編・応用編、FD講師派遣
- 教育改善スキル修得オンライン講座（無料版・有料版）
- 科目等履修生から修士・博士課程で学位取得！
- 共同研究・受託研究で課題解決！

授業デザイン編  
自律学習支援編  
FD活動デザイン編

詳細は・・・教授システム学で検索

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>

**RCIS**  
Research Center for Instructional Systems

第40回：大学等におけるオンライン教育とデジタル変革  
に関するサイバーシンポジウム2021.9.17.



# コロナ以降の高等教育デザイン

何を目指して何を残し何を始めるのか



## 熊本大学

教授システム学研究センター

大学院教授システム学専攻

教授 鈴木 克明

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>

